

第42回青森県「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール審査員講評



図画部門の審査風景



作文部門の審査風景

審査員講評 / 作文部門



青森市立千刈小学校
教諭 長崎 雅仁

今年も、多くの応募作品を読ませていただくことができたことに感謝いたします。ごはん・お米を通して、家族の愛情や絆が描かれた作品がたくさんありました。これらを読んで、わたしたち日本人の心を支え、つないでいるのはごはん・お米であるという思いがいつそう強くなりました。

今年の3賞は、おにぎり、かんぴょう巻き、おむすびをテーマとした作品でした。自分のために家族が心を込めて作ってくれた、そして、自分が家族を元気にするために心を込めて作ったごはん。いずれも、温かい思いにあふれた作品でした。



青森市立浪打小学校
校長 原 雄治

お米を通し、自分を取り巻く方々への感謝が綴られた作品が多く、心に残った作品には、①自分の思いを素直に表現 ②自分なりの独特な感覚を独自の言葉で表現 ③目の前に場面が浮かんでくるような会話文 ④汗水垂らした自分の体験を詳しく描写 ⑤将来の自分の姿について考えたこと ⑥社会情勢などに絡めて（主に上学年）などが見られました。

作文は自分の感動を伝えるものですので、自分の心が大きく動いた場面を中心に組み立ててみましょう。

調べたことや考えたことだけでなく、自分の行動が大切です。作品は、他の人に読んでもらうことで、伝わりにくい部分の確認もできます。ぜひやってみてください。



日本国語教育学会 理事
青森明の星中学・高等学校 副校長
高橋 光夫

ごはん、お米との出会いから、本人、家族、学校、地域の様子が目に浮かぶ心温まる作品ばかりでした。おにぎりのおいしさをとことん突き詰めていく作品、ごはん、お米をテーマに身近な家族を思いやる作品など、それぞれに感動的な物語がありました。

その中で、進化したお米作り、国産国産、食糧事情に触れて、より世界的に俯瞰しようとしている作品が現れつつあります。その際、良い体験、文献に触れ、感性を磨くことが、より良い表現に繋がります。さらに資料の引用、あるいは生成AIなどに関する留意事項が新たな課題になりつつあります。その上で、段落を意識した構想メモなどの指導が必要となります。更なる向上を期待しています。



東奥日報社
文化出版部 部長
秋元 宏宣

ごはんを食べること。たぶんみんな毎日していることだと思います。そんな日常的な出来事って、意外に文章で書くことは難しかったりするものですよね。でも、今回集まった作品を読んで、食卓が、またコメ作りが家族の絆を深めているということ、あらためて認識できました。

入賞作品を選ぶときは審査員全員とても悩みました。それくらい優秀つけがたかったのですが、その中で賞に選ばれた作品は、ごはんが大好きなこと、家族が大切なこと、何気ない日常の中に幸せがあることを、自分の言葉で素直に表現していたと感じました。作文に込めた思いを忘れず、家族もごはんも愛し続けてほしいと願っています。

審査員講評 / 図画部門



青森児童美術研究会
理事 工藤 玲子

今年は、応募校数及び応募点数が共に増加し、審査会場一杯に「お米・ごはん食の大切さ」を心を込めて表現した県内各地の児童生徒の作品が並び、嬉しく思いました。

審査は、小学校1学年から中学校3学年までの作品を3部に分けて審査しました。多くの作品の中から入賞候補をあげ、さらにその秀作の中から特に優れている作品として、次の3賞を決定しました。

●青森県知事賞 八戸市立吹上小学校 4年 加賀 愛唯

「さくらの下でお弁当」

満開の桜の木の下で家族そろって美味しいおにぎりやのり巻きのお弁当を広げて食べている様子を画面構成や色彩を工夫して表現した力作です。一人ひとりの楽しそうな表情や特徴をとらえて、水彩絵の具とクレヨンを用いて丁寧に描いています。画面中央の

お母さんの愛情一杯のおにぎりやのり巻き、卵焼きは、実物のような表現で驚きました。さらに周りの表現も混色、重色、筆のタッチなどで細やかに表現した素晴らしい作品です。

●青森県教育委員会教育長賞 七戸町立城南小学校 1年 免内 蒼士

「おいしいおこめになってね」

蒼士さんの「おいしいおこめになってね」という思いが作業を一生懸命やっている姿から伝わってくる素晴らしい作品です。明るく透明感のある色彩で、お米作りの春の作業を独自の画面構成で表現しています。画面を緑色の線で二分割して、下方には苗箱を軽トラックに積みまでの作業を表現し、上半分の画面には、田植機で田植えをしているという一連の作業の表現は蒼士さんならではの表現です。

●青森県農協中央会会長賞 八戸市立明治中学校 1年 及川 明李咲

「ちょっと休けい」

農作業の休憩時間の一時を、人物の特徴をとらえて表情豊かに表現した優れた作品です。美味しいおにぎりを食べながら、2人の会話が弾んでいるところを画面中央に大きく描き、後方に秋の収穫時期を伝える稲の掛け干しがカーテンのように表現されています。顔の表情やおにぎりを持つ手、服装の質感、腰をおろしている敷物等、細部にわたっての表現も見事です。



青森児童美術研究会

理事 中谷 則子

図画部門は、ここ5年間で一番応募校数が多かったとのこと、大変嬉しく思うと同時に、子ども達の頑張り先生方の熱心な指導に敬意を表します。

家族や友達と一緒にごはんを作ったり、食べたりした思い出の絵、田植えや稲刈り等体験したことを表現した絵が多いです。驚かされるのは、その題材の豊富さです。美味しいごはんを食べることの出来る幸せ、収穫への期待や感謝の気持ちが伝わってきます。

明るく楽しく心豊かな絵を今後も期待します。

●青森県知事賞 八戸市立吹上小学校 4年 加賀 愛唯

「さくらの下でお弁当」

桜の木の下で、みんなで食べるお弁当のにおいや笑い声が聞こえて来るようです。おにぎりや太巻の真っ白いごはんが黒いのりや色とりどりの具との組み合わせでとても美味しそうです。鮮やかな緑色の草、見事に咲いた美しい桜の花、どっしりとした桜の木、着色をよく工夫しています。とてもいいで、明るく力強い絵に感心しました。

●青森県教育委員会教育長賞 七戸町立城南小学校 1年 免内 蒼士

「おいしいおこめになってね」

蒼士さんは、田植機の仕組みや苗運びの仕事のことをよく分かっていて、田植えのようすがよく分かるようにとても工夫して描いています。まわりを淡い色にして人や機械を目立たせているし、上と下で仕事を分けています。おいしいお米になってほしいという願いが、がんばって働いている人たちからもよく伝わってくる素晴らしい絵です。

●青森県農協中央会会長賞 八戸市立明治中学校 1年 及川 明李咲

「ちょっと休けい」

農作業の手を休めて、おにぎりを食べながら談笑している2人の人物を上手に表現した素晴らしい作品です。人物の配置や画面構成が巧みです。シャツやエプロン、ズボンなどのしわ、顔の表情、手の描き方、細かいところまでとても丁寧に仕上げられています。2人の笑顔と背景や人物の周りの黄金色から、収穫の喜びが伝わってくるようです。



青森児童美術研究会

理事 佐藤 理子

応募校数、応募点数ともに増え、子ども一人ひとりがごはんやお米との関わりや思いを寄せられたことはとても嬉しいことです。家庭や学校などでおいしいごはんを食べた絵が多く、楽しい思い出として表現されていました。

また、田植えや稲刈りなど農作業を体験した絵には、お米やごはんへの強い思いが伝わってきました。

●青森県知事賞 八戸市立吹上小学校 4年 加賀 愛唯

「さくらの下でお弁当」

満開の桜、おいしそうなお弁当、そしてみんなの明るい笑顔。画面いっぱいに喜びと楽しさが溢れています。おにぎりの大きさだけでなく、海苔の黒さや質感の工夫でごはんの白さやおいしさが伝わってきます。豊かな表情や明るい色彩、丁寧な筆使い、お弁当を中心にした巧みな画面構成で表現された素晴らしい作品です。

●青森県教育委員会教育長賞 七戸町立城南小学校 1年 免内 蒼士

「おいしいおこめになってね」

「手伝い頑張ったよ。」という声が聞こえるようです。体験を通して米作りの大変さや収穫を期待する気持ちが伝わってきます。田植機や苗を運ぶトラックもよく観察していて丁寧に表現されています。車体の白、苗の緑、服など、色の使い方もとても上手です。

●青森県農協中央会会長賞 八戸市立明治中学校 1年 及川 明李咲

「ちょっと休けい」

おにぎりを食べながら一息する様子をとても表情豊かに仕上げた作品です。おにぎりを持つ手や衣服、後ろの稲などがとても上手に描かれています。2人の微笑ましい様子を思い出しながら、優しい気持ちで丁寧に表現された心温まる作品です。